

## 八千公広場の陶板大壁画と 原画作者がいる同窓会文集

JR渋谷駅の出口表示に「八千公広場」の文字が登場したのは1990（平成2）年春。そのきっかけとなつたお話です。

八千公広場の片隅から改札口にじっと眼を向けて、今も帰らぬヒトを待ち続ける忠犬八千公銅像の物語は、世界的に名高いが、ここに新しく「八千公ファミリー」と題した大壁画（縦4m・横11.2m）の完成を記念し、広場の名称も正式決定したのだと聞く。

この野外壁画は風雨に耐えるべく信楽陶器で構成されているが、なんと、なんと！ その原画作者が飯田高校卒の北原龍太郎画伯（本名・邦雄、高3回）と聞いて快哉を叫んだ。以来、八千公広場は母校自慢の場になり、他郷の友人たちにも宣伝吹聴を繰り返してきた。在京同窓会の誇りともいえる



大壁画である。待ち合わせ群衆の中で、孤独だった八千公像も、ファミリー壁画を眼にして毎日が楽しそうだ。

だがしかし、あれから三十年。忘却はヒトの歴史の常。これからの後輩諸君に、同窓会誇りの中継ぎ、が必要と感じ、ここに記載しました。

\*\*\*

もう二十五、六年も昔、在京同窓会総会の席で、初対面の森山光人さん（高3回）と妙に気が合って歓談した。翌々日、森山氏から一冊の本が届いた。題名は「べつたん おしなご 海ゆかば」（長野県上郷小学校20年会編著。東京・積文堂出版）。つまり、昭和20年小学校卒業生の思い出文集だった。表紙装幀は前出の北原龍太郎画伯。

この文集の出来映えは超抜群。森山さんの編集凝り性もあって飯田在住仲間の協力は男女とも甚大、旧教師たちの寄稿も多く類書を寄せ付けない素晴らしい。北原氏の画才は既に小学生で刮目されていて幾人かが思い出の中で触れている。北原氏は表紙のみならず、望郷の随筆と共に「八千公ファミリー」の写真に添えて「壁画の前で会いましょう」の詩を寄せている。

川のように流れ過ぎ去った月日も愛も二度と戻ってこない。森山光人さんも北原龍太郎さんも既に亡き人。「べつたん おしなご 海ゆかば」は飯田中央図書館も上郷図書館も県図書館も館内用、貸出用そろえて所蔵とか。

ああ、人は去り日は暮れる。だが、本は残る。壁画は残る。

牧内雪彦（中47・高1回）



「べつたん おしなご 海ゆかば」  
2000年11月発行  
長野県上郷小学校20年会編著  
積文堂出版

